荒尾市立府本小学校　校長便り　No.７７

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和８年２月２０日(金)

困らせる子は困っている子

私は担任教諭時代、比較的手の掛かるお子さんや学級を担任させて頂くことが多かったのですが、そんな児童と過ごす時に重要視していたのが「困らせる子は困っている子」という視点です。お互い人間ですから、時に苦手意識が生まれることもあります。担任としては「ちょっとこの子は苦手…」なんて思うこともあるかもしれません。でも、私達は教師ですから、そこから逃げることは許されません。そこで、私は、困らせる子（苦手な子）はすべて教室の最前列に配置して、常に関わり続けるというようにしていました。もともと、そういったお子さんは自己肯定感が低い傾向にあり、上からの指導に対しては抵抗感を持っています。だからこそ積極的に関わり、仕事をさせ達成感を味わわせ、「やればできる」という自覚を促すことが重要です。子ども達に指導が通らない理由や原因を子ども達に見出そうとしている教師を見かけますが、そうする前に自分自身のパフォーマンスを見つめ直す必要があると思います。

スペシャリストORジェネラリスト

私は専門職としての小学校教師ですが、若い頃、スペシャリストとしての教師を目指すかジェネラリストとしての教師を目指すか悩んだことがあります。今もかもしれません。保護者の皆様はどちらが良いと思いますか？　私は最近になって思い始めたのですが、小学校教師はどちらかと言えばジェネラリストである方が、仕事がしやすいと考えています。私達は「学ぶ」ことの楽しさを子ども達に伝えなければなりません。府本小学校でも学びの改革に取り組んでいますが、これからの学校（社会）は仲間と共に主体的に学び合うことが重要になっていきますので、そのため、これまでに私達教師が行っていた教え込みの一斉指導の授業を変えていく必要があります。学ぶ楽しさを感じた子ども達は、主体的に課題を見つけ、興味のあることを追求（追究）し、自ら深い思考へと進んでいくと考えるからです。小学校の段階で学ぶ楽しさも味わわないままに、教え込みを行うと、学びに対する主体性が摘まれてしまいます。これは行事等の活動も同じです。教師は「教える仕事」というイメージが強く、共学者としての意思が低いようです。だから、授業でついついお喋りし過ぎて、子ども達を退屈させ、睡眠に誘ってしまうのです。

私はこう思っています。小学校教師は、専門知識を持ちながらも、広く浅く多くのことを知っておくこと、そして人間関係調整能力を持ち、子どもと同じ視点をもつことができるジェネラリストであるべきだと。中学校までが義務教育ですので、高等学校からが専門教育であると考えています。ということは、少なくとも中学校までは「学び」の楽しさを伝えていくことが重要です。

教師の仕事は、人と接する仕事ですから、ジェネラルな考え方は非常に重要です。相手に対するリスペクト、抱えている課題や生活背景も、言動の根拠に据える必要があります。それができないと、相手に不快感を与え、ボタンの掛け違いから負のスパイラルに陥ることになります。

保護者の皆様も、多くの職場でご活躍されていることと思いますが、人相手の職場では大なり小なり同じようなことがあるのではないでしょうか。私自身、これまでの教職人生において多くの失敗を繰り返し、ここまで進んできましたが、今でも「しまった」「やっちまった」ということが多く、いつになったら穏やかに仕事ができるのかと奮闘中です。

シリーズ「自分を語る」#77

歩き始める前、子ども達はそれぞれに目標設定をするのですが、中にはこんな目標を設定する子もいました。

「コンビニを全部制覇する！」

何言ってんだこいつはと一蹴するのですが、実際のナイトハイクの後半では、正にそれと同じような状態になっていきます。班行動を開始する時刻は大体午前に入ってからです。出発直後は皆に元気があり、車の通りも多く、何となく全体に活気があります。しかし、午前2時ごろになると、車の通りも少なく、睡魔と痛みで発する言葉も無く、周りの昭明が少ないと、暗闇の中を浮かんだ状態で歩いているような気がしてきます。明け方近くは、私がくだらない冗談を言っても、反応が殆どありません。たまにかかる電話は児童の情報です。

「澤田先生、３班の〇〇君が座り込んで動きません。」とか、

「８班からです。澤田先生、気合を入れにきてください。」そんなことばかりです。大人の中には、もうダメということで早々にリタイアし、車に乗ってグ～グ～寝ている人もいました。それはそれで良しとして、子ども達失敗体験、挫折体験をさせる訳にはいきません。私は、先頭から逆走し、最後尾へ移動。逆に先頭に走って移動。そんなことは日常茶飯でした。多分、いつのナイトハイクでも、私は実際の距離より相当長い距離を歩いていると思います。そしてダウン寸前の子ども達の脇を抱えて歩いたり、後ろから押して坂道を登ったりすることもしばしばでした。そんな時に活躍してくれるのが、私の教え子達でした。彼らは自分たちを「澤田組OB、OG」と言っていました。この言葉は教師冥利に尽きますね。自分の名前を冠した学級の繋がりがあると思っただけで、嬉しくて鳥肌が立ちます。教え子同士の会話ではこんな会話も…

「お前、何年度卒？」

「俺っすか？　えっと、平成１２年度卒です。」

「今度、澤田センセーんちでバーベキューすっけんけーよ。」

勝手に家をBBQの会場にして盛り上がっています。でも…、嬉しいものです。

さて、話をナイトハイクに戻します。

前日の午後7時、JR上熊本駅を出発した一行は、既に玉名市と熊本市の境目を歩いていました。時刻にして、午前4時ごろでしょうか。先頭グループは午前6時到着を目標にしていましたので、まずまずのペースです。しかし困ったのは、先頭と最後尾の差でした。私は、午前4時ごろは集団の中頃を歩いていましたが、最後尾へ移動することにし、叱咤激励することに。というより、叱咤叱咤だったような!?　教え子の1人を最後尾に呼び、ある一人の女の子のサポートをすることになりました。この子には絶対に挫折を味わわすことはできませんでした。彼女は複雑な家庭環境の中、多くのことを我慢し、ストレスからか体調を崩す傾向にある子でした。朝は日常的に私が自宅に出向き、一緒に登校するか、車に乗せて来ていたお子さんでした。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　　可　・　不可　）